

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	男女共同参画イベント事業(主要事業)								
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	市民協働課	係	市民活動推進係	評価票作成者	男女共同参画担当係長 樋口 進	
1-3 総合計画における施策の体系	節	交流と市民参加 「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」			基本施策	男女共同参画		コード	5 1 4
	項				単位施策(中)	意識啓発		コード	5 1 4 1
		参加と協働			単位施策(小)	市民講座等の開催		コード	5 1 4 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市内在住在勤者及び参加希望者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		講演会方式の講座(イベント)を実施し、参加者に男女共同参画意識啓発を図る。			
1-5 事務事業の内容	多人数をよせて市民の意識向上を図る講演会方式の講座やイベント等の開催								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	不特定多数の参加者だけでなく、講座のテーマに関係する方々に参加を促した。	当該講座(平成18年度は自立支援「年金分割」)は、制度の変革期であり、正しい知識の伝達が必要であった。	年金分割の正しい知識がないため、「離婚問題」や「団塊の世代」の不安があった。少子高齢化社会での生活基盤の大切さを認識する手がかかりとなった。		
平成19年度	市民の意識啓発を目的とした男女共同参画川柳・標語を募集し表彰、寸劇による啓発、フォーラムにより第2次とよあけ男女共同参画プランの紹介と意識向上を図った。	プランの周知と意識向上を目的として、「男女共同参画プラン策定記念フォーラム」を開催。第2次プランについての概要を正しく伝える必要があった。	フォーラムでのアンケート調査では、男女共同参画社会の実現に期待する人は75%で、39%の人が女性(男性)であることで不平等を感じていると答えています。粛々と施策をこなしていくことが必要と思われる。			
平成20年度						
平成21年度						
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	男女共同参画イベントへの参加者数		300(人)	300(人)	会場を文化会館小ホールとして想定して、定員の300人を指標とした。会場によっては、参加者指標は好ましくないかも知れない。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		直接事業費 b(千円)	81	118							
人件費 c(千円)	124	319									
合計コスト d(b+c) (千円)	308	282									
単位コスト d/a (千円)	432	601									
	人当たり 5	人当たり 5	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費 委託料等
 平成19年度は、直接経費に川柳・標語の参加賞等(22,193円)を含む 会場:文化会館ギャラリー

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	81(人)	118(人)								
	後期目標値に対する達成度(%)	27.0(%)	39.3(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		B	B								

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価		
	平成18年度	今年度は、少子高齢化に対応する情報として、年金分割制度の講演としたが、必要とされている情報の伝達に努めた。	今年度は、少子高齢化に対応する情報として、年金分割制度の講演としたが、必要とされている情報の伝達に努めた。	今年度は、少子高齢化に対応する情報として、年金分割制度の講演としたが、必要とされている情報の伝達に努めた。	平成19年度は、新しい男女共同参画プランの初年度となるため、計画の推進・評価に向けてフォーラムを開催する。	平成19年度は、新しい男女共同参画プランの初年度となるため、計画の推進・評価に向けてフォーラムを開催する。	平成19年度は、新しい男女共同参画プランの初年度となるため、計画の推進・評価に向けてフォーラムを開催する。	参加者は少なかったが、内容・テーマはニーズに応えられたと思う。特に、相談者だけでなく相談員の立場の方々の参加により、これからの取り組みに期待がもてる。	参加者は少なかったが、内容・テーマはニーズに応えられたと思う。特に、相談者だけでなく相談員の立場の方々の参加により、これからの取り組みに期待がもてる。
平成19年度	今年度は、第2次とよあけ男女共同参画プランの策定年度であるため、計画の推進・評価などの概要を市民に知らせること、意識啓発に努めることが重要と考えた。	今年度は、第2次とよあけ男女共同参画プランの策定年度であるため、計画の推進・評価などの概要を市民に知らせること、意識啓発に努めることが重要と考えた。	今年度は、第2次とよあけ男女共同参画プランの策定年度であるため、計画の推進・評価などの概要を市民に知らせること、意識啓発に努めることが重要と考えた。	男女共同参画プランに基づく意識啓発のための事業実施が必要である。予算は経常的なものしかないが、市民・市民団体との協働によりイベントの開催を検討・実施する。	男女共同参画プランに基づく意識啓発のための事業実施が必要である。予算は経常的なものしかないが、市民・市民団体との協働によりイベントの開催を検討・実施する。	男女共同参画プランに基づく意識啓発のための事業実施が必要である。予算は経常的なものしかないが、市民・市民団体との協働によりイベントの開催を検討・実施する。	男女共同参画に関する川柳・標語募集は、意識啓発に効果的であった。イベントに表彰式や寸劇を取り入れ、フォーラム目的以外の集客ができたと思う。予算はないが、標語募集などは継続できる方法を考えたい。	男女共同参画に関する川柳・標語募集は、意識啓発に効果的であった。イベントに表彰式や寸劇を取り入れ、フォーラム目的以外の集客ができたと思う。予算はないが、標語募集などは継続できる方法を考えたい。	男女共同参画に関する川柳・標語募集は、意識啓発に効果的であった。イベントに表彰式や寸劇を取り入れ、フォーラム目的以外の集客ができたと思う。予算はないが、標語募集などは継続できる方法を考えたい。
平成20年度									
平成21年度									
平成22年度									
平成23年度									
平成24年度									
平成25年度									
平成26年度									
平成27年度									

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
4-1 総合評価の結果	平成18年度	B	参加者数が少ないという問題点を検証する必要がある。
	平成19年度	B	参加者の裾野を広げる工夫をすること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		